

# …至仏山…充実した山行



メンバー L.長谷川  
橋爪(後) 小森宮

スキーを持っており、五月の平均気温は、本当にホセラ一な山スキーゲレンデとなっているようだ。ススケ峰までのコースは、ゆるい登り下りが続き、ところどころ波状のギャップに、なっている場所もあったが、まあまあ滑れる斜面であった。

ススケ峰から1818P手前のコルまでほとんど直滑降で下り、猫又川の左俣へ滑りこむ。太陽に照らされて雨は大分重くなっていたが、沢の上部では豪快な滑走が楽しめた。沢の合流点に着くと、その先は平坦になつてしまいほとんど滑らなくなる。シールをつけた方が楽な感じさえした。太陽がキラキラ照りつけ、風もないので全く暑い。川床において水を履い、は'い飲みほした。

鳩待峠までバスが来ていないことがはまりしたので、今日は鳩待峠泊りと決め、山ノ鼻で"のんびり"休む。クロカンの少年と競争のよふにして峠まで登り、1本300円の缶ビールを2本買いこんだ。(記:長谷川)

タイム: 出発 7:50 → ススケ峰 10:40/11:00 → 山ノ鼻 13:00/14:00 → 鳩待峠 15:20  
5月5日(火) 快晴

[鳩待峠 - 至仏山 - 悪沢 - 鳩待峠 = 沼田]

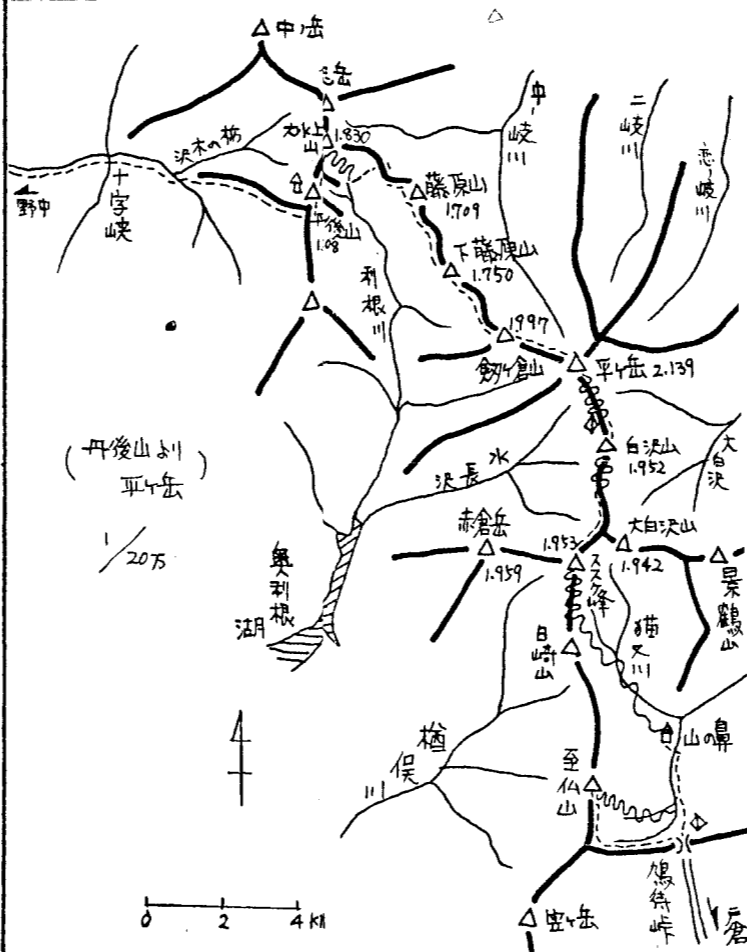
天気は最高だし、折角ここまで来たのだからということまで至仏を滑ることにする。朝のうちでまだ硬い雪を踏んで、至仏山頂に着くと、今回縦走してきた奥利根水源の真白山々が遠くにかすんで、一望に見渡せる。結構遠くまで来たんだなあと思つて改めて実感する。雪が柔らかくなり始めるのを待って9時頃より滑り始める。人の多い至仏も、悪沢を滑る人は半分おらず、広い斜面を我々だけで占有したような感じである。まだ気温もあまり上がらず、ザラメ雪としては最高の滑り良さだった。

充実した今回の山行も終。今日のおまけのような快適な滑りを最後のしめくりとして、T度 鳩待峠に着いたばかりの77シールに乗込んで帰途についた。

タイム: 鳩待峠 5:30 - 柳沢田代 7:00 - 至仏山頂 8:20 / 55 - 悪沢合出 9:15 - 鳩待峠 9:35/10:15 <sup>77シ</sup> / 11000... 沼田 11:40/57 → 上野

小森宮記

## ＜ルート図＞



# スキーをわっいて" 歩きまわった"

## 仙ノ倉山

＜長谷川淳一記＞

1981.5.9~10

天気予報では、日曜日、はいは天気が持ちそうだったので、シッケイ沢の滑降をめぐして出かけてみた。ところが、平標小屋に着く頃から雨がポツリポツリと降り始め、ガスもだんだんと濃くなってきた。ガッカリしたが、せっかく来たのだから仙ノ倉山は踏んでおこうと思い、平標をトラバースして先へ進む。山頂に着いた時には視界は10mほどになってしまった。北尾根をちぎりと下って西俣沢をのぞきこむと、少し先から雪の斜面が急角度に切れ落ちていた。なにが地獄の底からガスがあきあがってきているような感じがした。沢の下降は見通しが良くなければとてもヤル気はない。

少しでも滑降距離をのばそうと思って、平標山まで登り返す。磁石を真南に合わせ笹原にそって滑り始めたが、せめて前はヤブで行きどまり、左手は急斜面となり、沢へ落ちこんでいる所へ出てしまった。100mほど登り返して踏み跡をたどり笹原をトラバースする。正想のルートにもどつてからは踏み跡を見失わないように慎重に下り、小屋に出た。見通しの悪い時のスキー滑降は本当に難しい。

スキーが使えたのは平標山から小屋までの下りだけで、あとはスキーをわっいて"歩きまわった"一日だった。

タイム: 火打峠 7:00 → 平標小屋 9:05/9:20 → 仙ノ倉山 10:50/11:10 → 平標山 11:50 → 平標小屋 12:40/13:00 → 火打峠 14:15

メンバー: L.長谷川

810603

5

No.00065